

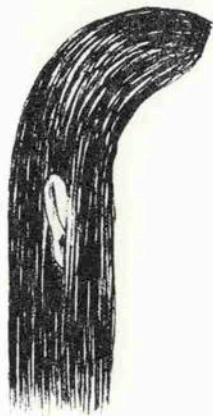
ショート・ショート

# HONEY

〈後編〉

下大路 由佳

え・佐藤 英夫



夕方、空の彼方に一切れの黒い雲が姿を見せたかと思  
うと、それはたちまち空一面に蔓り、大気は熱を帯びて  
雨の予感を運んで来た。ヴァーノンがオフイスから坂の  
上のアパートメントに戻った時、明け方彼が港で出会っ  
たレイコという女を、彼は彼のテラスに見出したのだっ  
た。好きなだけ眠っていくといい、ヴァーノンは自分が  
そう彼女に言い残して、今朝アパートメントを出たこと  
を、その時になってようやく思い出した。

電灯の灯されていない薄暗い室内で、レイコは窓  
辺にもたれて空を見上げていた。湿気を多量に含  
んだ大気が、汽笛の音を普段よりずっと大きく  
響かせ海をいつもより身近かに、彼女に感じ  
させた。レイコは、自分が見送った一人の  
男のことを考えていた。いや、男ではな  
く、男の肉体を借りて彼女の前を横切っ  
ていった一つの死を、彼女は噛みしめて  
いたのかもしれない。レイコはもう、  
その赤毛をした、ストックホルムからや  
って来た若い下級船員の顔を、はつきり  
と自分の脳裏に組み立てることが出来な  
かったのだ。男の肉体は、彼女の記憶の  
中で既に溶解しはじめ、ただ彼が彼女に  
残した、永久的な別離だけが、彼女の身体  
の奥深くに大きな虚脱感となって沈澱して行  
くのレイコは感じた。彼女はその虚脱を充分  
識っていた。だが決して、その感覚に慣れること  
が彼女にはなかったのだ。

「恋人のことを考えているのですか？」

ヴァーノンの、アメリカ人にしては正確すぎ、美し  
すぎるアクセントと発音を持った英語をレイコは彼女の背  
後で聞いた。彼女は振り返らずに口の中で言った。

「違うわ」

「あれは、恋人じゃなかったのですか？」

「恋人でも何でもないわ。ただの……、男の一人よ。あ

たしは、いつもこうなるの。誰かと別れる度に、本当に辛くてたまらないの。死んでしまいたいくらい、辛いのに」

ヴァーノンにはレイコの傍らにやって来て彼女と並ぶと雲が垂れ籠めた空と海に顔を向けた。

「それじゃ、どうして……」

彼は娼婦の身の上など聞きたくもなかったのだ。だが彼は、レイコに話させたかった。彼女の唇から発せられる言葉に、娼婦という擦り切れた概念をかけ離れた、いわば擦り切れた概念を裏切る彼女の言葉に、彼は耳を傾けたかったのだ。

「どうして？ 何が？ そうね、みんな聞くわ、同じよ、いつも。どうしてこんな生活をしてるのか？ どうして、どうして。お生憎さまね、あたしには悲しい身の上話なんかも無いのよ。あたしは、自分でこの生き方を選んだの。そうよ、あたしは……」

雨の最初のひと滴が夾竹桃の剣の形をした細長い葉の上に落ち、すすさま、激しい雨滴の群れがやって来た。その後、空の果ての方で低い太鼓の轟きに似た雷鳴が聞こえ、続いて、灰色の空を縦に、短かい光が走った。

「Thunder (雷)」

ヴァーノンは思わず口走った。

「Thunder is beautiful.」

彼の耳許で、レイコの抑揚のない声がした。

「サンダーが美しい？ あたしには、ひどく悲しく見えるわ」

「サンダーは美しいよ。あれは驚異だ。我々の力を越えた驚異だから美しい」

「サンダーは……、人生よ。あたし達の命は、サンダーによく似ているわ。偶然の中で生まれて、偶然の中で消滅する、痕跡さえ残らずに……」

再び、樹木の張り裂けるような雷鳴と共に、矩形の光が空を縦に走り、レイコの横顔を輝らし出した。いきなり彼女はヴァーノンの胸の中に飛び込むと、激しく泣きじゃくりはじめたのだ。

「抱いててちょうだい。あたしを暖めて。あたしは恐いの、死が、空しさ、恐いの」ヴァーノンの頭の中で、二つに分裂したレイコの矛盾が錯綜した。今、彼の胸の中で、幼ない生命が、あまりの幼なさに死に死に対する限りない恐怖の中で脅えるように、震えているレイコ。そして、自ら死を弄んででもいるように、別離を死と名づけ、別離の中に耽溺しているレイコ。ヴァーノンは当惑し、しかし、彼女の不可解にひたむきな何かが、彼に、彼女を抱きしめていなければならぬと命令するのだ。レイコは懸命に何かに抵抗しようとしているように見えた。ヴァーノンは、彼女が抗おうとしている何か——もしかしたら、彼等の生命が普遍的に背負っている、ほとんど宿命あるいは運命の名で呼ばれて憚らない空虚——に、彼も又抵抗しつづけて来たものではなかったのかと思った。土地を変え、新しい不安の、あのめくるめくような戦慄の中に自らを投じること、彼には自分を燃焼させていると感じる、その熱い時が必要だった。何の為に？ おそらく、世界という、流動してゆく大きな空しさ跟自己存在との対比を、自分自身に禁じる為に……。

ヴァーノンは、揺れ動いているレイコの、涙ですべすべした顔に、自分の顔を接近させた。彼女の唇から洩れている呻きのような言葉を奪い去る為に、彼女の唇に自分の唇を密着させた。しかし彼は、自分が決して欲望の所業で彼女を抱いているのではないことを知っていた。レイコの肉体を突き抜け、その遙か遠くに在る、いわば彼女の精髓そのものと一つに結び合わさりたいという、それは希望に似た熱情の仕業だった。ヴァーノンは、理性が徐々に熱情によって支配され、その支配の下に屈服してゆくような時間の中で、レイコの繰り返す「抱いていて。あたしを抱いていて」という声の持つ意味を理解したような気がした。

樹々の葉から落ちる、雨だれのやさしいスタッカート置いて驟雨が去ったあと、静けさが夜を取り巻いた。ヴァーノンとレイコは、薄い毛布の下に体を横たえたまま

ま、もう長い間何も話していなかった。しかし、沈黙は彼等にとって耐え難くはなく、彼等はお互いが安息に身を委ねているのを知っていた。

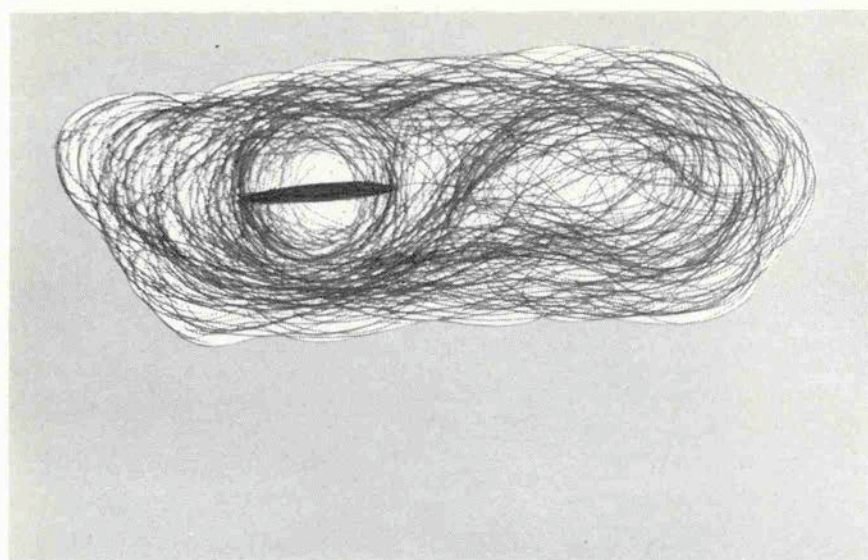
「サンダーは、美しいのかもしれないわ、あなたの言うように」

闇の中でレイコが囁いた。

「君は、サンダーを悲しく見えると言ったじゃないか」

レイコは小さく寝返りを打つと、ヴァーノンの顔を自分の両手の間に挟み込み、そして、闇の中でほのかに見える彼の顔の輪郭を、愛情を持った視線で辿った。

「ヴァーノン」



レイコは初めて彼の名前を口にしました。

「ヴァーノン、あたしには、すべてのもののの中の、死、だけが見えるのよ。そして、死が強くあたしを掴まえた時、あたしは苦痛を感じるわ。それを乗り越えなければならぬと思うことが、あたしをとても疲れさせる……。」

あたし達は沢山の死を乗り越えて、乗り越えて、限りもなく果てもなく無数の死を乗り越えて……、そして結局は骨折りではないのよ。あたしも又、その死の中へ入って行くだけのことなのよ」

「しかし君は、自分から死を求めているように、僕には見える。だって君は、自分で選んだと言った」

「そう、あたしは、自分で選んだの。あたしは耐えられなかったわ、死の重さが。だからあたしは、死になろうとしたのよ、そうよ、逆療法のようなものね……。でも変なの、あたしはそれを恐がっているけど、それを求めているのよ。だって、それは美しいわ。たった一つきりの、絶対、だから。あたしは、それが見えて来る時にしか、もう誰かを愛したり出来ないの。何故って、それはすべてを輝やかせる、すべてを美しくする……。あなたは毎日、あの太陽を眺めていて、太陽がそこに在ることさえ意識していないわ。でも、もしあの太陽を、今日限り見ることが出来ないとなあなたが知ったとしたら、多分あなたは、命と引き替えにしても惜しくはないほど、それを貴重なものだと感じるわ。この世の中で一番美しくて貴重なものだ、って。死は、美しいわ。絶対、だから美しいわ。他のことはみんな、何もかも、不確かなのよ。確かさなんか、一つも無いわ。でも死だけは、動かせない絶対の真実なの……」

「それは、おそらく不幸な考え方だ」

ヴァーノンは、彼の頬を捕えているレイコの細い手首を握りしめた。だが彼には、レイコが進んで行こうとしている彼女の途を変更させ得る、決定的な言葉は見つからなかったのだ。レイコは体を小さく丸くして、動物のように彼にすり寄った。



「今は、今はもう話したくないわ。話すと、みんな嘘みたいな気がするから。眠いの。あたしは、あなたの暖かさを感じて眠りたいの、それだけよ」

夕立のあった夏の日から、三年が過ぎたのだと、ヴァーノン<sup>1</sup>は、テラスの向うに、レイコが取り込むのを忘れた彼女のバジャマが、濃くなってゆく夜の中で、白さをきわ立たせているのを眺めながら思った。現在彼は、彼の肉体の一部分のようにして絶えず彼の生活の中に、ひっそり棲息して来たレイコと自分との間に、遠い距離を感じていた。ヴァーノンには分らなかったのだ。彼等二人の前方に横たわる別離という死と同じ意味を持つ存在が、レイコに彼を愛させたのか、それとも、彼を愛そうとすることの為にレイコが死の意識を常に必要としたのか。しかし彼女に問いかけてみたところで、レイコ自身にもそれは答えられないに違いなかっただろう。だが、とヴァーノンは思った。疑惑を持ちはじめれば、すべての愛は砕け散り、消滅してしまうだろう。レイコの言うように、死以外の絶対はあり得ないのだから、と。そして彼は、いずれにせよ彼等はお互いが必要としていたのであり、現在もやはり必要としていることは事実なのだと自分に言い聞かせた。キッチンから聞える金属の触れ合う微かな音を、ヴァーノンは、又しても彼を見舞ったひどい無力感の中で捕えていた。

レイコは、チョコレート<sup>2</sup>の芳ばしい香りに包まれたキッチンで、鍋の中の、ココア色をしたFudge<sup>3</sup>を、飽きもせず掻き廻している。彼女は、鍋の中の、ミルクとチョコレートと砂糖、それからバニラエッセンスで作られた液体を、注意深く、分離させないように、温度計の目もりに視線を配りながら掻き廻している。柔らかく、しかも微妙な歯ごたえを持ったFudgeを作るには、温度が大切なのだ。ヴァーノンがレイコに、このアメリカの家庭でしばしば作られる砂糖菓子<sup>4</sup>の名を教えた時、彼女は、ヴァーノンの、多分幸福に充ち、すべてが輝やかしかっただろう幼年期の記憶の為に、それを作りたいと考

えたのだった。レイコは現在、慣れた手つきで鍋を掻き混ぜながら、ヴァーノンと二人がかりで、小さな鍋の中のココア色をした液体を相手に格闘した日を、狭いキッチンの中に魅らせていた。それは、香水色の陽ざし<sup>5</sup>が眩しい秋の午後で、レイコは、本屋の店先で数日前に見つけたアメリカのホーム・クッキングブックを開いていた。そして彼女はその中にFudgeを見つけ、ヴァーノンに向かつて叫んだのだ。

「Honey、ほら、Fudgeがあるわ」

彼等はすぐに車をガレージから出すと、クッキングブックの指示通りの材料を揃える為に街へ飛び出して行ったのだった。

クッキングブックと計量カップを見比べながら材料を配合しているレイコの、奇妙に厳肅な表情を、ヴァーノンは面白そうにキッチンの扉に寄りかかって見ていた。数十分後、鍋から立ち昇るチョコレートの甘く暖かい匂いに、ヴァーノンは、ロスの郊外の小さな町にある、自分の家の白く広いキッチンをひと時訪れているような錯覚を、ベッドルームのソファに寝そべりながら楽しんだ。母がFudgeを作る間、その傍らで彼女につきまとっていた十歳のヴァーノン・マーティン。ヴァーノンは眼を閉じ、束の間、彼はあの、不安と身震いするような戦慄を忘れた。彼は、彼の人生を、この甘く暖かいチョコレートの匂いの中に埋すめ、その中に深く静かに沈めてもよいような気がしたのだ。穏やかな死が彼を迎えにやってくるまで、そのまま人生がその位置に停止し、日々が流れていることにすら気づかない、そうした生活の中に、自分を委ねてもいいと彼は思ったのだ。その時、レイコが大きな声で彼を呼んだ。ヴァーノンがキッチンに入ると、レイコは泣き出しそうな顔で彼を見上げて言った。

「Honey、いくらやっても固まらないわ。ホットチョコレート<sup>6</sup>みたいになまよ」

ヴァーノンがレイコに代って今度は鍋を掻き廻す番だ

☆新しい関西を創造する総合雑誌

# オール関西

〈9月号予告〉

☆グラビア 「女の四季」金井 克子

“ 「万葉記」⑥吉野 犬養 孝

“ 「And His Ladies」

小谷 隆一

“ 「神戸の女」

“ 「私の散歩道」

☆特集 京阪神ファッション地図

“ プライダル

☆連載対談② 望月美佐、鴨居羊子

☆商売の最前線 「俵屋吉富」

☆激動のアラブに行く⑩

イラク (上) 林 辰彦

☆「織田作之助伝」⑧大谷晃一

☆「競馬酔狂連」⑦新橋遊吉

☆ 昨今世相診断「上方咄家初秋夜話」

笑福亭光鶴、桂小米

☆ 美術の話題

1.万国博跡地美術館

2.アサヒアートナウ

☆ 大阪芸術大学の可能性をさぐる

・音楽

☆ 新連載「大阪物語」石濱恒夫

月刊オール関西編集部

大阪市北区梅ヶ枝80梅新東ビル7F

TEL06-364-2434~7 (代)

った。彼は、液体のままだいっまでも固まらないFudgeに苛立ち、騒々しい音を立ててやっ気になって三十分近くも鍋を掻き廻したのだ。つまるところ、彼等の大変な努力にもかかわらずFudgeは、とうとう完成しなかった。鍋の中のどろどろの液体を眺めながら、レイコは情ない声で言った。

「どうするの? この変テコな代物を」

それから彼等は、自分達のひどく生真面目で馬鹿気た数時間に突然気づき、涙が出るほど笑い、そして狭いキッチンに立っているお互いに対して、肉親のような親近感を覚えて抱擁し合ったのだった。

キッチンの白く冷たいタイルを凝視めながら、レイコはあの秋の日に、たまらない愛着を抱いた。しかしFudgeという単なる砂糖菓子が、レイコに刺されるような疼きを与えるのは、彼等の愛の死が、すぐ目前まで近づいているのを、彼女が自覚しているからに他ならないことをレイコは認識していた。もし、あたしが彼に従って行ったらとしても、そして同じようにこうしてFudgeを作ったとしても、それはもう、この切迫した愛とは全く異質な何かでしかないだろう。あたし達は、Fudgeが単なる砂糖菓子の名になり、それが日々の中に極めて自然に入り

込んでゆく、そういう世界に生きるようには出来ていないのだ。レイコは鍋を火から下ろすと、キッチンの電灯を消し、ベッドルームに入って行った。

ヴァーノンには海に向かったソファに、以前と同じようにして腰を下ろしたままだった。レイコは彼の背後に近づくと、小さな声で言った。

「ヴァーノン、愛しているわ」

それから彼女は、彼の柔らかな金髪を愛撫した。もう海は、既にどこに在るのか定かではなかった。しかし、海の匂いがしていた。

「あたしが男だったら、あたしはあなたのような生き方を選んだかもしれないわ。そしてあたし達は一生、友人として結び合っていたかもしれないわ」

レイコは見えない海を、視線で探った。あたしは、あなたのように余りにも希薄な実在感を追って行くことが出来ないの。すべての死を吸い尽しつづける大地に溶け入ろうとすることしか、あたしには出来ないの。

「Honey」ヴァーノンが呟いた。だが彼は、それに続くどんな言葉も探し当てる事が出来なかった。ヴァーノンが呟いた「Honey」、それはレイコの内部に大きな残響を残し、七月の夜の中に消えた。

(完)

# 曲線ハイウェイ

武田 繁太郎  
え・横 塚 繁



二泊して、鳥牧に別れを告げると、二人は、札幌からくる途中にとおったニセコに寄ってみることにした。ここは、スキー場のあることで、内地にも知られてい

〔あらすじ〕 東名高速サービシアreaで多木洋介は神戸の女性宇津康子と知合い、逢瀬を重ねるうちに康子にひかれていった。ある日友人岡本和彦と共に神戸へきた多木は康子に会えず、彼女の面影に似た辰野英子を紹介され、六甲山ヘドライブに出かけた。ロマンティックな情景に誘われて英子を抱きしめた多木の胸に、初めて感じるいとおしさがつり、その夜二人は愛しあって別れた。

そんな時突如として康子から電話があり、多木と康子は二人の愛を確かめあった。翌朝、風のように去っていった康子を追いつた神戸にきた筈の多木は、岡本の早呑み込みと神戸の雰囲気の中で英子を探している自分に気付いた。英子をみつけた多木は淡路島へのドライブに出かけたが、その帰りに中年の男と寄りそって歩いている康子を目撃した。その衝撃を負って帰京した多木のもとに康子からの屈託のない電話が入った。十日間の休暇をえた多木は、北海道へのドライブに康子と出かけ、札幌から海岸沿いの国道を通り、さいはての村島牧に向った。その村は、難病にかかった象の花子が温泉で闊病していることで、かつて新聞に報道されたことがあった。

宮内温泉についた二人は、花子を見舞い、花子の世話をしているS氏と親しくなった。翌日二人は村内の見物に出かけ、S氏に教えられたジャスパのある浜に遊んだ。その夜、二人はS氏を招いて夕食を共にし、花子の話に耳を傾けた。

るが、標高千三百メートルのニセコアンヌプリ山を中心にして、その周辺を温泉群がとりかこんでいた。

ニセコは、内地の大手の観光資本がはいりこんできて、すっかり土地を食いあらしめているという。

そういう噂をきいていたので、多木は、まだ彼ら大手企業に侵蝕されていなさそうな温泉を狙い、国道五号線から山ぞいの道をすこしはいった薬師温泉というのに泊ってみた。



多木のカンは、あたっていた。薬師温泉には宿が一軒しかなく、木造の古びたその宿は、老夫婦が二人だけできりもりしているという、ひなびた山の温泉宿だった。

宿のまえから、すぐまじかに、雄大なアンヌブリの全容が迫ってみえた。アンヌブリの左手に、イワオヌブリ、チャヌブリなど、千メートル級の山なみがつらなっている。スケールの大きな眺めである。

この宿の湯は、人肌とかわらぬほどぬるい。さいしょは、体温を吸いとられるような感じだが、いつまでとはいっていても、のぼせることがない。そのうち、身体が芯から湯に溶けていくような、ほのぼのとした気分になれていく。

「こんな温泉、はじめてだな」

「あたしも、はじめてだわ」

二人は、湯舟のふちに頭をもたせかけ、ながながと身体をのびしたまま、三十分以上も湯につかっていた。うつらうつらと夢でもみているようなこちよさだった。

翌日は、ニセコから羊蹄山の南麓をぬけて、その南にある洞爺湖にでた。二人は、湖畔にたちなんているホテルの一軒に宿をとった。昨夜のひなびた山の宿とはうってかわり、六階建てのどこの観光地でもみられるようなホテルだった。

「なんだか、熱海か白浜にでもきた感じね」

「うむ。洞爺湖がこんなに俗化しているとは意外だったな」

多木も、もっと人為のくわわらない、原始の姿をのこした湖だと思いでいたのである。

五階の部屋の窓の下は、湖水が波だっていた。湖の真ん中に、こんもりと四、五百メートルほどの高さで樹木の茂った島が浮んでいる。その手前に、かわいい鰻頭型をした小島もみえた。

「さすがに、景色がいいな」

多木は、視界いっぱいひろがっている洞爺湖のたえずまいをながめながら言った。湖は大きくもない。小さ

くもない。ちょうどひと目でながめられる、恰好な広さだといえただろう。

「だけど、この湖、なんだか出来すぎているって感じだな。絵葉書を見るみたいな感じだ。こういう景色は、ちよつとながめるのにはいいが、毎日みていると、あきるんじゃないのかな」

多木は、ふと、山中湖畔からながめる富士の姿を思い出した。あのあたりからの富士の姿も、まるで絵葉書を見るように出来すぎていて、こちらが照れ臭くなるような感じだった。

山中湖もすっかり俗化してしまつたが、この洞爺湖が、多木をがっかりさせたほど俗化しているのも、わかるような気がした。湖畔の水も濁っていた。林立するホテル群から吐きだされる汚水が犯人だったのだろう。

「フランスに、ツーリズムはツーリズムを破壊するという言葉があるそうだ。日本流に言えば、観光資本が観光資源を食いつぶすと言うことか。これも、その例外ではなさそうだな」

「やっぱり、鳥牧のほうがすばらしかったわね」

康子も、あらためて鳥牧のよさを思いだすように言った。

だが、この洞爺湖だけではなかった。二人は、洞爺湖から支笏湖にまわり、さらに足をのびして、大雪山にある層雲峡をたずね、阿寒湖にも寄ってみた。

「ここまできたら、思いきって、知床までいってみましょうか」

康子ははりきって言ったが、

「いや。知床はよそう。あすこは、流行歌で有名になった秘境だからな。有名な秘境なんて、おかしな話だ」

多木は、十勝の高原を長駆苦小牧めざしてクルマを走らせながら言った。

ニセコもよかった。支笏湖もわるくはない。阿寒もすてきだった。みんな、それぞれに特色のあるよさを持っていた。

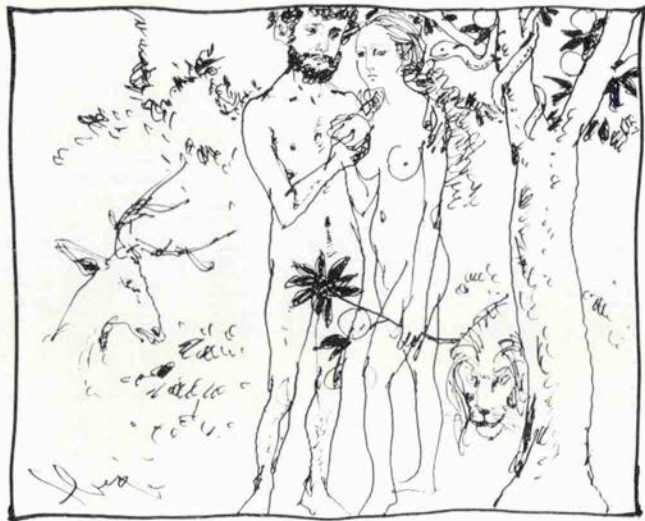
だが、二人の結論は、期せずして一致していた。やはり、島牧がいちばん印象ぶかったのである。

「島牧には、海、山、温泉と、三拍子そろった変化の妙味といったものがあつたからな。食べるものも、当然、海の幸、山の幸に恵まれている。その点が、ほかの観光地とはちがっていた」

「そういえば、ニセコなんか、静かで、ひなびていてよかつたけど、単調といえば単調ね」

「そりゃ、まわりが山ばかりだからだ。アンヌブリは、たしかに美しい。だけど、山ばかりながめっていると、景色に変化がなくなる。しかも、だされる料理は山菜ばかりだ。洞爺湖も支笏湖も、目にはいるのは、湖だけだからな。どうしても飽きぐるんだ」

「島牧は、おなじ山の景色でも、海岸辺は荒々しいぐら



い男性的で、一步奥にはいると、のどかな高原があつたり、牧歌的な牧草地があつたり、山自体に変化があつて、あれじゃ、いつまでいても飽きさせないわね。お魚でも、川の魚あり、海の魚あり、アワビが獲れ、ウニがとれ、アユまで獲れるとは、知らなかつたわ」

「それに、象の花子もいたしね。Sさんの話もおもしろかつた。いろいろ考えさせられたな」

苦小牧からふたたび乗船したフェリーのキャビンで、二人は、旅の印象を語りあつた。

「あなたに誘われて、思いきつてでかけてみて、よかつたわ」

「島牧を知り、そこに住んでいる花子とSさんに会えただけでも、きた甲斐はあつたな」

多木は、いまいちど、あの自然の宝庫につつまれた秘境の村のことを思い浮べながら言つたが、東京に帰つてからも、自分たち二人に語りかけてきたS氏の言葉のかずかずが、あざやかに思いだされるのだった。

S氏は、動物のセックスの生態から、人間をふくめた動物の愛と性の在り方を、氏独得の体験を通して語つてくれた。

むろん、人間は動物とはちがう。だが、どこがちがつているのか。それは、人間が知恵を持っているということだろう。

人間は、かつて、知恵の木の実を食べた。その日から、人間は動物とちがつてきた。

動物は、すべて自然から与えられた本能のままに、素直に、柔順に生きてきている。

だが、人間は、身につけた知恵で、本能を自由気ままに操作しようとした。

第一の操作は、本能のなかにある欲望を、本性から抽出し、その欲望の持つ快楽をむさぼろうとした。

動物は、腹がへらなければ、ものを食べない。あの百獣の王といわれるライオンでも、腹がふくれているときは、そばをかよい動物が通つても、みむきもせず、ウ



ツラウツラと眠っている。それが、食の本能というものであった。

だが、人間はちがっていた。人間は、食の本能のなかから、食べることの快楽を知った。エサにする獲物をとることの快楽を知った。その快楽だけを追いもとめて、釣だの狩猟だのという、ただ動物を殺戮する残忍な遊びをおぼえた。

愛も性も、種族保存という本来の生殖の本能から、いつのまにか、勝手に分離されてしまっていた。愛と性の快楽だけが、むさぼられていた。

だが、欲望というものは、際限がなかった。ひとたび欲望の虜になると、だれもが、とめどもなくその欲望を深おいていく。そのはてにあるものは、欲望によって身を滅すということだけだった。

人間は、動物とちがうことで、はたして幸福だったのか。人間は、知恵の木の実を食べて、ほんとうに幸福になったのか。

バイブルは、人間が知恵の木の実を食べたために、エ

デンの花園を追放されたと言っている。二十世紀の現代人も、バイブルのこの言葉を、あらためて思いだす必要があるだろう。

S氏も語っていた。現代のセックスは、墮落した、廃したとよくいわれるが、もしもそうなら、もっと動物のセックスを見ならったほうがいい。S氏は、象の花子をタイの自然のなかにかえてやりたいと言う。人間もまた、自然にかえるべきだと、言っているのである。

なぜなら、人間もまた、どれほどごかしい知恵を持つとうとも、所詮は、自然の一部だからである。「われは海の子」という唱歌があったが、人間は、いまこそ、「われは自然の子」という歌を、謙虚に歌いつづけていかねばならぬ時期にきている。

愛も性も、その自然の子の営みであることを忘れてはならないと、多木には思えてきた。(つづく)

## 〈神戸の催し物 9 月ご案内〉

### 〈音楽〉

★内山田 洋とクールファイブ  
9月3日(月) ①PM2:00~4:00 ②PM6:30~8:30  
神戸国際会館 民音 会員制 ¥1,100

★国立平壤マンスデ芸術団——日本訪問初公演  
9月5日(水)~7日(金) ①PM1:30~4:30(7日のみ) ②PM6:30~9:00  
神戸国際会館 S ¥5,500

A ¥4,500 B ¥3,000  
C ¥2,500 D ¥2,000  
演出/革命歌劇「花を売る乙女」、音楽舞踊アンサンブル



★ダーク・ダックスをきく

タベ  
9月21日(金) PM6:30~9:00 神戸国際会館  
A ¥1,300 B ¥1,000 C ¥800 D ¥600 曲目/第一部  
ダーク北原白秋をうたう、第二部 銀色の道、泉のほとり、  
白い想い出、ある愛の詩、他 演奏/ダックリングス・グループ

★カーメン・キャパレロ

9月22日(土) PM6:30~8:30 神戸国際会館 民音  
会員制 ¥1,200

★MFLフォークコンサート

9月24日(月) PM1:30~6:00 神戸国際会館 前売券  
¥800 当日券 ¥1,000

★ブラザース・フォア——〈来日10年記念コンサート〉

9月27日(木) PM6:30~9:00 神戸国際会館  
A ¥2,400 B ¥2,000 C ¥1,700 曲目/グリーン・フィールドズ、花はどこへいったの、500マイル、漕げよマイケル、  
七つの水仙 他

★東京・プリステン演奏会——パール・コンサート〈第11回〉

9月27日(木) PM6:30開演 兵庫県民会館9階ホール  
¥700 曲目/I バッハ……「音楽の捧け物」よりBWV1079、II ヴィヴァルディ……リコーダー協奏曲イ短調、III バッハ……チェンバロ協奏曲ホ長調 BWV1053

★オペラ「トスカ」

9月28日(金) PM6:30~9:00 神戸国際会館 労音  
会員券 A ¥3,000 B ¥2,500 C ¥2,000 (一般券もあり  
ます) 指揮/外山雄三 演出/中村俊一 ソプラノ/成田絵智子 テノール/五十嵐喜芳

### 〈演劇〉

★テアトルエコー公演「11ひきのネコ」

9月17日(月)、18日(火)、19日(水) PM6:15~9:00  
労演 会員券 ¥800 出演/熊倉一雄、山田康雄 他

### 〈その他〉

★山の講演と映画のタベ

9月4日(火) PM6:00開演 神戸国際会館 無料(先着2千名)

★第3回そごう秋のファッションフェスティバル

9月8日(土) ①PM2:00~3:30 ②PM6:00~7:30  
神戸国際会館 整理券

★若柳流玉柳会

9月9日(日) AM10:00~PM9:00 神戸国際会館 ¥1,500

★今岡頌子舞踊研究所発表会

9月15日(土) 正午~PM7:00 神戸国際会館 無料

★藤間流舞踊会

9月16日(日) AM10:30~PM8:00 神戸国際会館  
¥1,500

★山とスキーの映画会

9月26日(水) PM6:30~9:00 神戸国際会館 無料





# 神戸のうまいもん&ドリンキング

## ★日本料理

- 阿なご寿司 青 辰  
神戸市生田区元町通3-184  
TEL 331-3435
- 讃岐名代うどん あこや亭  
神戸市生田区旗塚通7-5 TEL 231-6300  
トアロード店 TEL 391-2538  
兵庫駅前店 TEL 575-5306
- 和食くれな い  
三宮生田新道浜側中央  
KCBビル2F TEL 331-0494
- かつぱう 花くま  
神戸市生田区花岡町45  
TEL 341-0240
- 鍋もの・おむすび 悟味酒  
お茶漬・おむすび 神戸市生田区北長狭通1の20 TEL 331-3848  
三宮さんちかタウン TEL 391-5319
- お茶漬・おむすび ふる里  
神戸市生田区北長狭通2の1  
TEL 331-5535
- たこ焼たちばな  
三宮センター街(旧柳筋) TEL 331-0572
- 和風料理 楽樹  
神戸市生田区下山手通3丁目41  
トアロード西筋淡路交通入 TEL 391-8649
- 料亭 大し  
舞合区熊内町6丁目39の6  
TEL 221-1360・1945
- 寿司 ミハラ  
神戸市生田区元町通1丁目12  
TEL 391-3155
- 北海道郷土料理 蝦夷  
神戸市生田区中山手通1丁目115  
生田区東門筋東門会館ビル1階  
TEL 331-7770
- レストラン アポロン  
神戸市舞合区八幡通5丁目6  
TEL 251-3231
- レストラン 龍 皮〈あらかわ〉  
神戸市生田区中山手2-9  
TEL 221-8547・231-3315
- GALLERY & STEAK HOUSE SAN-MON 三門  
神戸市生田区中山手通2丁目98・99  
TEL 331-5817
- ステーキハウス れんが亭  
神戸市生田区下山手通2丁目34  
TEL 331-7168

## ★西洋料理

- レストラン 男爵  
神戸市生田区中山手1-18  
山手第一ビル1F TEL 241-0778
- maison de la mode 花屋敷  
三宮フラワーロード市役所前  
TEL 251-2109
- 鉄板グリル きゃんどの  
神戸市生田区北長狭通2-22  
TEL 331-1183
- レストラン キングスアームス  
神戸市舞合区磯辺通4-61  
TEL 221-3774
- 居酒屋 風れすたらん 井戸のある家  
生田新道新世紀南  
TEL 331-5664
- レストラン ムーンライト  
三宮・生田新道  
TEL 331-9554
- 串かつ店 和蘭屋  
三宮相互タクシー北入  
TEL 321-0230
- グリル・鉄板焼 月  
神戸市生田区北長狭通1-24  
生田神社前 TEL 331-2509
- BARBECUE & STEAK 六段  
生田区元町通3丁目  
TEL 331-2108
- イタリア料理 ドンナロイヤ  
神戸市生田区明石町32  
明海ビル地階 TEL 331-7158
- レストラン ハイウェイ  
神戸市生田区下山手2-20  
TEL 331-7622
- ピッツアハウス ピノッキオ  
神戸市生田区中山手2-101  
TEL 331-3545
- レストラン フック東店  
神戸市生田区栄町1-5-3  
TEL 321-3207
- ピザ& スナグティ ガルの店  
舞合区琴緒町5丁目1-7  
西山ビル1F TEL 241-9025
- レストラン ミリオナークラブ  
生田区山本通2丁目50の2  
レストラン 231-9393~5  
メンバーズ 221-1162

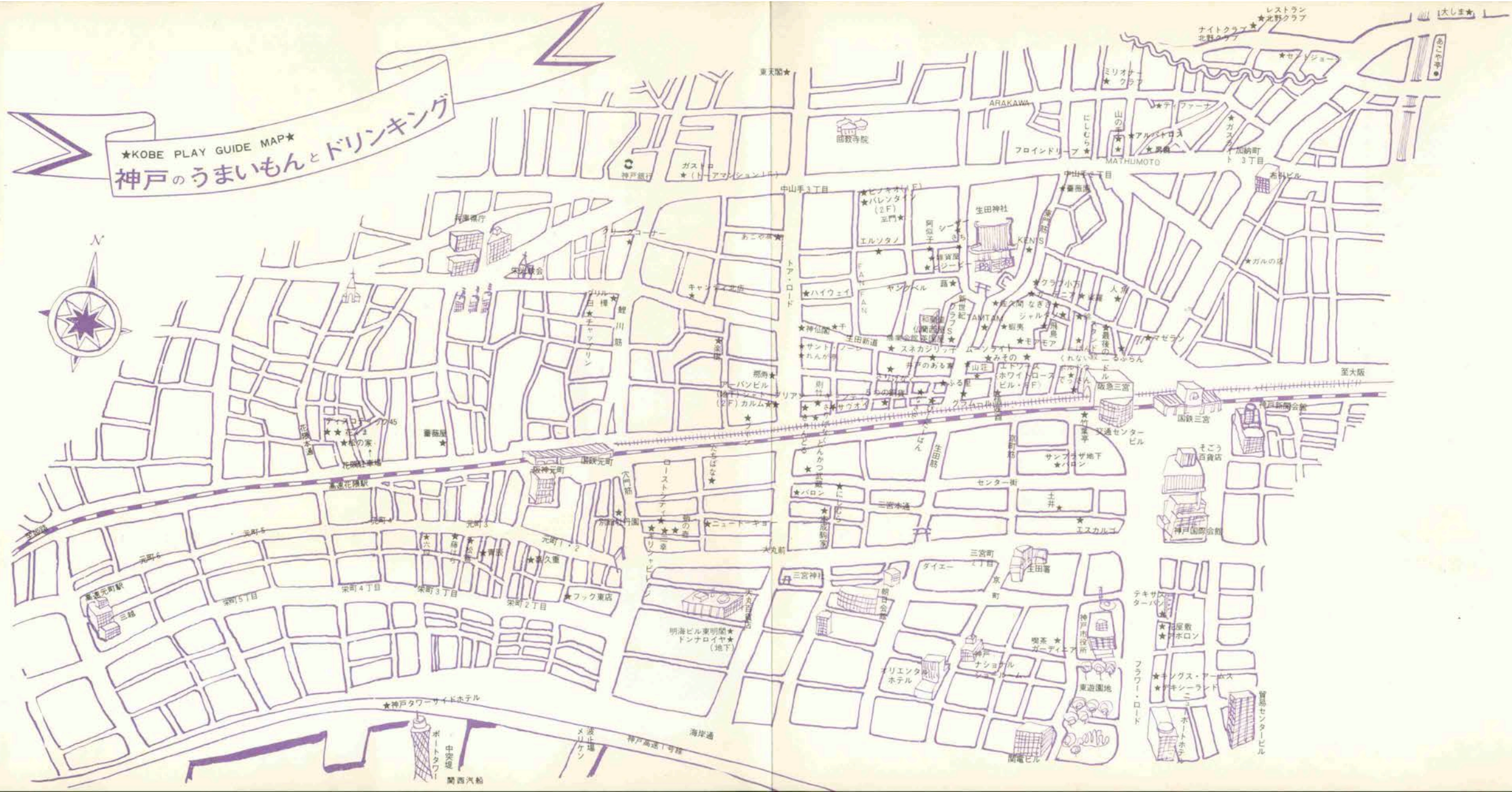
- レストラン セントジョージ  
神戸市生田区北野町1丁目130  
TEL 242-1234
- メキシコ小料理 ティファーナ  
神戸市生田区中山手通1丁目4ノ12 パールコーポラスビル1F  
TEL 242-0043
- ★喫茶 フォークウエスタン  
ローストシティ  
神戸市生田区三宮町3丁目22  
TEL 331-3770
- 宮水ヒーロー にしむら珈琲店  
中山手店・神戸市生田区中山手通1丁目70  
TEL 221-1872・231-9524  
センター街店・神戸市生田区三宮町2丁目35  
TEL 391-0669
- modern Jazz & Coffee さりげなく  
生田区北長狭2-22 TEL 331-9762
- 喫茶・レストラン バロ  
神戸三宮サンプラザ地下  
トアロード店 TEL 391-1758  
TEL 391-1210
- 喫茶 ガーディニア  
神戸市生田区東町113-1 大神ビル1F  
TEL 321-5114
- ★club くらぶ阿以子  
神戸市生田区中山手2丁目89  
TEL 331-6069
- c i u b 飛鳥  
神戸市生田区中山手1丁目117  
TEL 331-7627
- エドワーズ倶楽部  
神戸市生田区北長狭通1丁目28  
ホワイトローズビル5・6F 生田新道 TEL 391-3300
- c i u b 小万  
神戸市生田区東門筋中島ビル3F  
TEL 391-0638・4386
- c i u b さち  
神戸市生田区中山手通2丁目75  
TEL 331-7120
- クラブ 佐久間  
神戸市生田区東門筋ビュスタウンビル3F  
TEL 321-2226・7
- クラブ 千  
神戸市生田区下山手通り2丁目21  
TEL 391-1077
- 洋酒 肆 仏蘭西屋  
三宮生田新道相互タクシー北入  
TEL 321-0230

- c i u b なぎ  
神戸市生田区北長狭通2の1 TEL 331-8626
- c i u b 薩くふき  
神戸市生田区下山手通2丁目 TEL 391-1515
- くらぶ ーげん  
三宮生田新道浜側中央KCBビル5F  
TEL 331-8593
- c i u b Moon Light  
BAR TEL 331-0886・391-2696  
Club TEL 331-0157
- クラブ るふらん  
神戸市生田区北長狭通1丁目53 TEL 331-2854
- クラブ 佐久間  
神戸市生田区下山手通1丁目5 ゼウスタウンビル3F  
TEL 321-2226・7
- ★STAND & SNACK  
スタンド 英国屋  
生田区下山手通2-6 相互タクシー横  
TEL 331-1100・331-6600
- スナック エルソタノ  
神戸市生田区下山手通 TEL 331-6620
- スタンド グラムール  
生田筋岸ビル地階 TEL 331-4637
- SNACK MATSUMOTO  
神戸市生田区中山手通1丁目32ノ3  
曾根ビル1F TEL 241-5470
- カクテルラウンジ サヴオイ  
高梁山側 テキの店北  
TEL 331-2615
- スタンド さりげなく  
生田区下山手通2丁目31  
生田筋上高地西入 TEL 331-3714
- 洋酒ハウス 雑貨屋  
神戸市生田区下山手通2丁目  
PHONE 078-321-0860
- スナック ビジービー  
神戸市生田区中山手2丁目  
TEL 391-4582
- 居酒屋 ボルドー  
生田新道浜側中央KCBビル1F  
TEL 331-3575
- スナック シーザー  
生田神社西門伊藤ビル地下  
TEL 331-1429

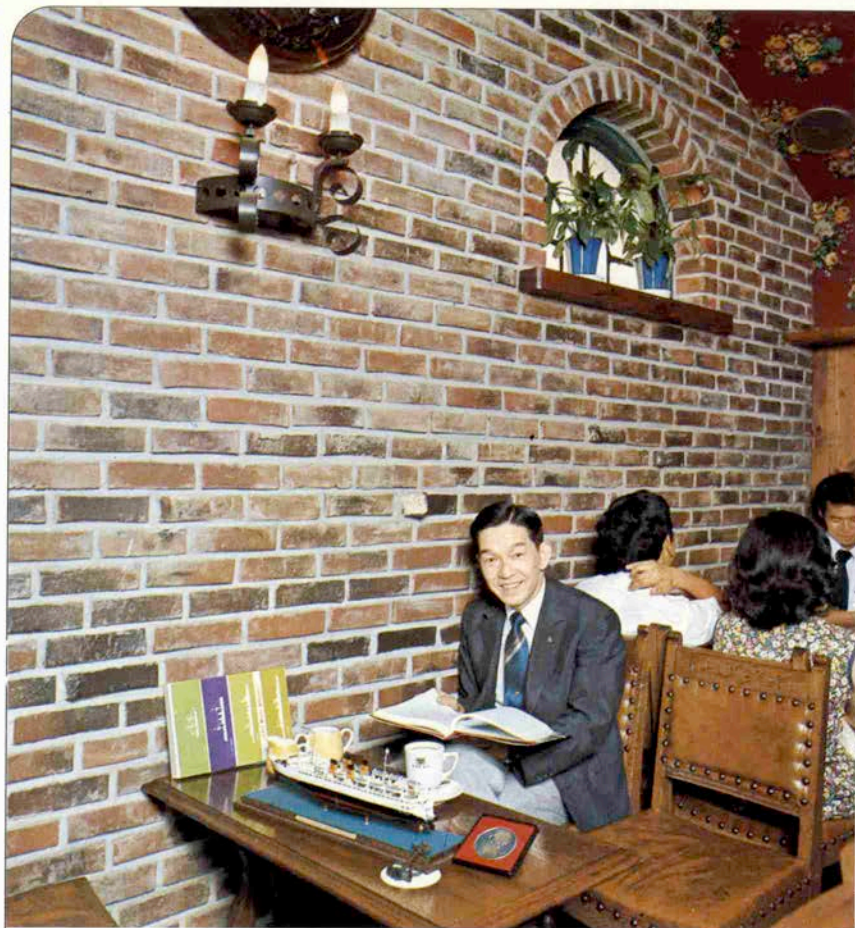
- 洋酒の店 キャンティ  
神戸市生田区北長狭通2丁目3  
TEL 391-3060・391-3010
- スープとパン店 キャンティ北店  
神戸市生田区下山手通3丁目8-9 TEL 331-3661
- DRINK スネカジリッ子  
神戸市生田区下山手通2丁目  
水晃ビルB1 TEL 391-8708
- Stand&Snack サントノーレ  
生田区下山手通2丁目トア・ロード  
TEL 391-3822
- 素舌洞 でっさん  
神戸市生田区北長狭通1丁目源平寿司3階  
TEL 331-6778
- STAND アトラス  
生田区中山手通1丁目95  
TEL 331-5433
- Music Tea & Snack チャップリン  
生田区下山手通4丁目36  
TEL 078-331-7888
- スナック GASTRO  
神戸市生田区中山手通3-20  
トアマンション TEL 231-0723
- スタンド クラブ・ガーデニア  
神戸市生田区中山手通1丁目115  
東門筋中島ビル2F TEL 391-3329
- SNACK 山の手  
神戸市生田区中山手通1丁目  
ソネビル1F TEL 221-3637
- 淳子の店 姿 (SARA) 羅  
生田区中山手1丁目91  
TEL 391-1647
- サロシアルバトロス  
生田区中山手通り1丁目24の7  
大和ナイトプラザ1F-B TEL (231) 3300
- スペイン風 薔薇園  
生田区東門筋東門ヴィレッジB  
TEL 331-0708
- snack MORE MORE  
神戸市生田区中山手通1丁目107  
TEL 391-4162
- スナック 山荘  
神戸市生田区北長狭通1丁目22  
TEL 391-5823
- SNACK & DRINK ガスライト  
神戸市生田区加納町3丁目1番地61  
TEL 241-7724
- スタンド 紋  
神戸市生田区北長狭通1丁目41-1 レンガ筋  
TEL 331-8858



★Kobe PLAY GUIDE MAP★  
神戸のうまいもん＆ドリンクング







# balcon antique series

XIII 船

泉 江三

〈「軍艦の模型」著者〉

「船の模型もいいもんですよ。私はもっぱら自分で作るほうですがもうかれこれ35年になります。余暇の時間を自由意志でまったく自主的にそれに没頭する。徹底的なりサーチに始まって仕上げが終るまで、気の長い話ですが4・5年かけるものもあるんです。凝り性なんですね。きっと。

全国に250人程の仲間がいます。みんな経験豊かな人達で、模型のこと以外に色々教えられというメリットも少なくないようです。一時的なブームに踊らされないしっかりした〈自分の趣味〉をもつこと。これは〈心豊かな生活〉に非常に大切なことなんじゃないでしょうか。

カメラ/米田定蔵

◀トアロードバロンにて

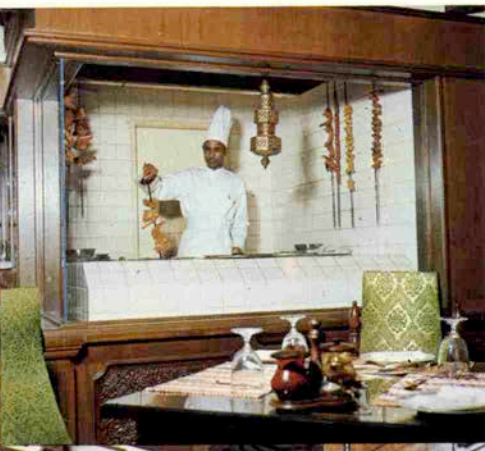
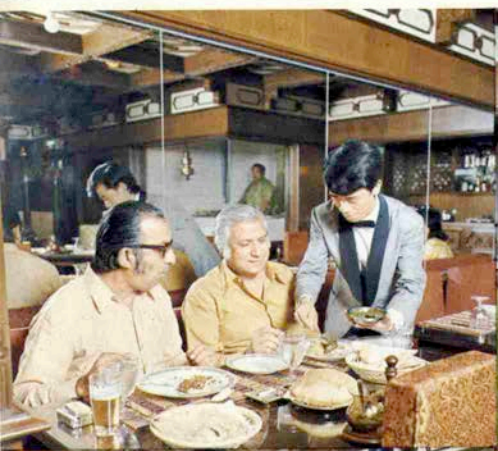


## バルコン

★英国風喫茶・レストラン 三宮さんプラザ店  
TEL 391-1758 AM11:00-PM 9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店  
TEL 391-1210 AM10:00-PM 9:00迄

★コーヒーショップセンター街店  
TEL 391-1375 AM10:00-PM 9:00迄



本場のインド料理の店  
がオープンしました。  
インド料理の秘訣は、  
その複雑・微妙な味の  
組合せにあり、香料の  
調合と調製は何百年も  
の伝統に裏づけされた  
技術によってはじめて  
可能となるものです。  
インドの土壤につちか  
われた本場のインド料  
理を神戸のみなさんを  
はじめ、日本中のみな  
さんにぜひ味わって  
いただきたいと思います。

# Gaylord

## INDIAN RESTAURANT

11:30 a.m. ~ 2:30 p.m. 5:00 p.m. ~ 10:00 p.m. 水曜定休  
フラワーロード・明治生命ビル地下1階 ☎ 251-4359

### ● 当店の自慢料理 ●

#### ○ 特製タンドールランチ

タンドールチキン・シーウカバブ  
ボティカバブ・チキンチッカ・ナン  
チキンマサラ  
ローガン・ジョシュ・ダルススペシャル  
野菜プラナ・紅茶かコーヒー  
¥1,600

#### ○ 菜食者特製タンドールランチ

三種類の野菜料理  
サモサ・ライタ  
紅茶かコーヒー  
¥1,200  
その他各種のメニューを用意しております



Our town in KOBE

## ゆたかな街づくり



**KOBE**  
**NIKKEN**

□総合インテリア  
建築設計施工・店舗改造

株式会社  
**神戸日建**

神戸市灘区御幸通3丁目1  
PHONE (078) 251-3525(代)

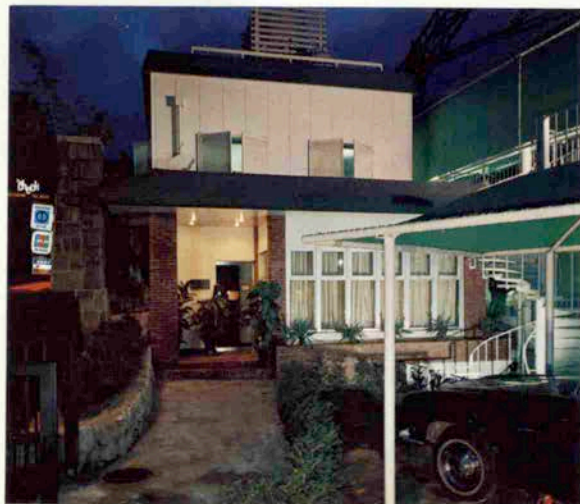
おふくろの味とはいったい何なのか？ ふるさとの味とはいったい何なのか。人間が食生活に求めてきた習慣は文明の進化と共に大きく変わろうとしている。三分間待つことが現代のおふくろの味であり、それこそ、みそ汁の味もひとあじちがってしまった。私達は大量にコンペアーで生産されるハンバーガーをエサとしてたべてはいけないと思う。たしかに「起きて半帖、寝て一帖、天下をとって二合半」かもしれない。しかしこれは乞食道にすぎず、大事なことは何をそのときに選ぶかで、食生活のゆたかさについて、もう一度考えなおさなければならないと思う。このレストラン・ゲイロードは本格的インド料理の店で、お国から出される料理にも哲学的なものを感じさせてくれる。私は、ふりかえり、ふりかえり店を創っていきたい。(小野原)

ジャガーのある店



# The **check** 高級レストラン 神戸店 オープン

諏訪山ゴルフセンター レストハウス内



おなじみの高級レストラン「ザ・チェック」が神戸にやってまいりました  
落ちついた雰囲気です炭焼料理をどうぞ……

リラックスしていただけるバーカウンターもございます  
ゴルフ練習のあとはカフェテラスでリフレッシュ——

高級レストラン **ザ・チェック** 神戸店

神戸市生田区山本通5丁目6 (相楽園山側) ☎ 078 (351) 3522 ● 専用駐車場(10台)完備



ミナトを見晴らすデラックス練習場

諏訪山ゴルフセンター

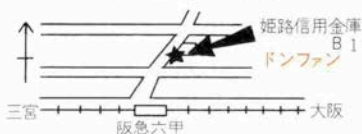




tea & snack

恵一子の店 ドンファン  
**Don Juan**

神戸市灘区山田町3丁目1の15  
TEL 821-6426



“ドン・ファン”をたずねた陳舜臣氏(右)と本辰也氏  
六甲のふもとに、スペイン風のTea &  
Snack「ドン・ファン」を開きました。  
昼はコーヒーとカレー、夜はドリンクの気  
軽な店です。ぜひお立寄りください。  
花柳芳恵一子

● Menu

スパゲティ	¥400	B.W	¥550
ハンバーグ	¥500	G.G	¥450
スペイン風野菜サラダ	¥500	生ジュース	¥300
ポタージュ	¥300	コーヒー	¥300
コールコンソメ	¥300	Tea	¥300
Tea time	am10:00~pm5:00		
Drink time	pm6:00~am1:00		





ママ／植田延子

# SNACK Non

神戸市生田区中山手通1丁目  
ダイワナイトプラザ2F  
TEL 231-2000  
P.M.6:00～A.M.1:00



## ●メニュー

ビール	400円
オールド	500円
お茶漬	600円
オールドキープ	7500円

開店一周



● 北海道の味覚 ●

● 北海道帯広市西2条9丁目 オリエンタル観光株  
大雪山国立公園樺平温泉富士見観光ホテル直営

● 毛がに 2000~2500円 ルイベ(シャケのサシミ) 500円  
お酒 300円 蝦夷鍋・十勝鍋 500円 十勝ワイン 300

● 北海道一品料理 ●  
帆立貝(ほたてがい)  
北寄貝(ほっきがい)  
氷下魚(こまい)  
柳葉魚(ししゃも)



北海道  
蝦

神戸市生田区中山手通1丁目115 生田東門筋東門会館ビル1





DRINK & SNACK  
スネカジリy子

生田区下山手通 2 丁目 30

永晃ビル地階

☎ 391-8708



Stand & Snack

山荘

生田区北長狭通 1 丁目

22

☎ 391-5823

KOBE DRINKING GUIDE

スタンド 紋

生田区北長狭通 1 丁目

41-1 レンガ筋

☎ 331-8858



すみやき  
段

生田区元町通 3 丁目

中突提筋

☎ 331-2108





★いつも、気のきいたジョークと、底抜けに明るい笑い声の絶えることのないお店。それが“スネカジリッ子”です。“スネカジリッ子”のスペースに足を踏み入れると、いつの間にやら、スネカジリッ子独特の空気になるでして、ずい分と昔から、そこに腰を落ち着けているような錯覚にとらわれたりするのです。グラスをソッと置いて、傍の彼(あるいは彼女)とのおしゃべりをやめて、目を閉じてみると、ホラッ、とっても居心地のいいスペースであることが、身体中で分るのです。心ゆくまでエンジョイできるスペースをもっていることが現代の若者の条件なのです。

☆水割G&G ¥300 ビール(小) ¥250 おつまみ ¥100  
 ピッツァ ¥350 ミニチュアピン(W) ¥500  
 5:30 P.M. ~ 1:00 A.M. 第1・第3月曜日定休



スネカジリッ子

## 山莊ハブニング宣言!

ツンとすました店なんかクソくらえ! お客さまと大いに楽しく一緒に遊ぼうじゃないか。それが“山莊”の哲学なのです。店は20代、30代のホワイトカラーのたまり場。底ぬけに明るく、リラックスした雰囲気は最高です。掛け値なしに神戸独特のムードがピッタリの店なのです。マスターの上松さんは、これまた独特の個性をもったひと。バンドギターの調べによって、うたをうたえばこれまた楽し。ワイワイガヤガヤ……。おまけにドキッとさせるハブニングも充満しているのです。ホラ、ムンムンする熱気のなかから何かが起こりそうですよ。

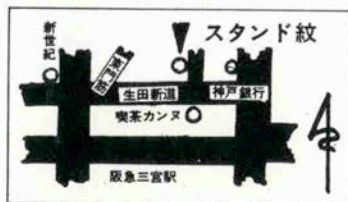
☆パーティ・コンパ・クラス会などにもご利用下さい。

6:00 P.M. ~ 2:00 A.M.



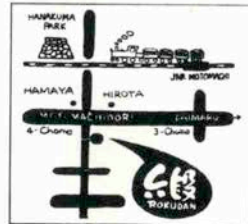
山 莊

KOBE  
DRINKING  
GUIDE



スタンド“紋”

六 段



★生田新道山側を東へ歩いて、レング筋をチョット入った左側にスタンド“紋”があります。扉を気軽に開けて入ると、そこは、あなただけの小宇宙です。スタンド“紋”がこのレング筋のユニークな店として喜ばれている秘密は、その落ち着いた雰囲気と、店の個性あるメンバーのせいなのです。巻に灯のともる頃、まだ先のはずの秋の訪れをフツ感じたとような気になったとき、足は今宵もスタンド“紋”へと向かうのです。ほのぼのとした春の宵、情熱に燃える夏の宵、もの想う秋の宵、暖かな灯が恋しい冬の宵——。四季を通じてスタンド“紋”をあなたの憩いの場としてぜひ御利用下さい。

☆フィズ ¥400 ビール(中) ¥400

6:00 P.M. ~ 1:00 A.M. 第2・第4日曜日休

★すみやきばら—“六段”が登場して以来、この間、神戸の方にはもちろんのこと、遠方の方にも、その味にはご好評をいただいてまいりました。選びぬかれたコーベ・ビーフのまろやかな舌ざり。ねり上げられたたれ味噌のこくのある味。いずれも、食通の方にも、さすがは“六段”の味!と御満足いただけるものと自信をもっております。琴の音が流れる落ち着いた雰囲気の中に、すみやきの神戸肉の芳香のただよう店内はなつかしい日本の古里を想いおこさせます。どこにもない“六段”だけの味をぜひご賞味下さい。

☆ステーキ(サラダ・スープ付) ¥1,800より バーベキュー ¥600より  
 しゃぶしゃぶ ¥1,800 さしみ ¥3,000 その他お好みにより調理いたします。

☆12:00 P.M. ~ 9:00 P.M.